

# 地方創生推進交付金等活用事業の実績について

## (令和元年度実績)

本市では、「市原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成 27 年度策定)及び「市原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020」(令和元年度策定)に掲げる施策を推進するため、国の地方創生推進交付金<sup>\*</sup>を活用した各種事業の展開に取り組んでいます。

この中では、関連する事業を「プロジェクト」としてパッケージ化し、相乗効果による成果の創出に取り組んでいます。

あわせて、プロジェクトごとに KPI(重要業績評価指標)を設定し、毎年度において成果検証を行い、必要に応じて事業の改善や強化を進めています。

令和元年度は、台風、大雨被害や新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、目標を達成した KPI は、全 5 件のうち 2 件でした。

その詳細について報告します。

令和2年8月

市原市都市戦略部拠点形成推進課

---

### 目次

1	世界に一番近い「SATOYAMA」プロジェクト (地域資源を活かした観光振興).....	2
2	“ちば”共創都市圏内における連携によるグリーンツーリズムの推進 (地域資源を活かした観光振興).....	7
3	2019(令和元)年度における各プロジェクトの事業実施状況.....	11

<sup>\*</sup>地方創生推進交付金…地方創生に取り組む自治体に対する国の財政支援のひとつ。自治体の総合戦略に位置付けがあり、国から地域再生計画の認定を受けた事業に対し、複数年(3年又は5年)にわたって国が事業費の1/2を支援する制度。官民連携や政策間連携など高い先駆性が求められる。

# 1 世界に一番近い「SATOYAMA」プロジェクト (地域資源を活かした観光振興)

## (1) 計画概要

- ◆ 東京圏外周に広がる里山や周辺地域一帯を「文化創造圏」として、人が創り上げた自然である里山と、そこで培われた歴史・文化・民俗・芸術の交流、地域を縦断する小湊鐵道、さらにはそれらの体験を主要なコンテンツとして展開する観光地づくりを君津市など近隣自治体との広域連携により進める。
- ◆ 市原版 DMO を創設し、観光産業全体の推進体制を構築する。
- ◆ 羽田・成田の両空港の中間に位置する好立地を活かして、世界に一番近い「SATOYAMA」ブランドを創出し、2020 年を見据えた、国内主要都市やインバウンドをターゲットとする広域観光産業づくりを目指す。

## (2) 計画期間

- ◆ 2016(平成 28)年度～2020(令和 2)年度 5 年間

## (3) 主な実施状況

年度	実施状況
2019 (R1)	①観光地づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鐵道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ 市原市観光協会を「日本版 DMO 候補法人」として登録</li> <li>・ 本市の持つ様々な資源を活用し、市原を中心とした里山の魅力を広く国内外へ発信していくため、キックオフイベントや企画発表会の実施等、「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020」開催に向けた取り組みを実施。</li> <li>・ 近隣市町村と連携により、同芸術祭に他市文化団体を誘致することで観光客へのおもてなしを強化。</li> </ul> ②しごとづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> </ul> ③地域活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たに地域おこし協力隊を指名(1 名)</li> <li>・ 地域おこし協力隊は、牛久商店街の活性化事業の展開、里山を舞台とした旅ヨガプロジェクト等を実施</li> </ul> ④愛着と誇りの創生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集資料管理システムを運用し、文化財資料情報を Web サイト上で発信</li> </ul> ⑤シティプロモーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報発信力の強化のため、外部の有識者による懇話会や職員向け研修を実施した。</li> </ul>

年度	実施状況
2018 (H30)	①観光地づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ DMO 設立に向けた市原市観光協会の体制強化</li> </ul> ②しごとづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> </ul> ③地域活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊は、菜種油「ハルイチバン」の展開、牛久商店街活性化等を実施</li> </ul> ④愛着と誇りの創生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史のミュージアム事業基本設計に基づき、拠点施設の建築と展示環境構築のための実施設計を実施</li> </ul> ⑤シティプロモーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シティプロモーション冊子を制作、イベント等で配布</li> <li>・ 外部有識者による懇話会、職員向け研修を実施</li> </ul>
2017 (H29)	①観光地づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ 新たな観光ルートの開発に向けた観光路線バス「房総さとやま GO」の実証運行(君津市・大多喜町との広域連携事業)</li> <li>・ 観光プロモーション(君津市・大多喜町との広域連携)</li> <li>・ DMO 設立に向けた市原市観光協会の体制強化</li> </ul> ②しごとづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> <li>・ 観光地への商品等流通経路の検証</li> </ul> ③地域活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊は、菜種油の商品化に向けた試作品の制作などを実施</li> </ul> ④愛着と誇りの創生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史のミュージアム事業基本計画の策定と拠点施設の基本設計を実施</li> </ul>
2016 (H28)	①観光地づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道沿線の景観整備への支援</li> <li>・ 養老溪谷駅前広場の改修支援</li> <li>・ 市原市観光振興ビジョンの策定</li> <li>・ 新たな観光ルートの開発に向けた観光路線バス「房総さとやま GO」の実証運行(君津市との広域連携事業)</li> <li>・ 観光プロモーション(君津市・大多喜町との広域連携)</li> </ul> ②しごとづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家レストラン商品開発への支援</li> <li>・ 観光地への商品等流通経路の検証</li> </ul> ③地域活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域おこし協力隊の指名(1名)</li> <li>・ いちはらポイント制度構築に向けたニーズ調査・研究</li> </ul>

## (4) 成果検証

## ① KPI(重要業績評価指標)

ア 小湊鉄道観光利用乗車人数(1日フリー乗車券・房総横断鉄道乗車券・観光列車乗車券)(千人)

年度	2014 基準値	2015	2016	2017	2018	2019	2020	累計
実数	31	41	75	74	73	43		337
目標値			3	3	3	3	7	19
実績値		10	34	▲1	▲1	▲30		12
評価		—	◎	△※	△※	△※		

目標値及び実績値は各年度における対前年度増減数を示す(以下同じ)。

◎=目標値以上、○=目標値の概ね8割以上、△=その他

※対前年度では△、実数ベースでは目標値を達成

イ 観光入込客数(千人)※上段:総数 中段:市原市 下段:君津市

年	2015 基準値	2016	2017	2018	2019	2020	累計
実数	6,459	6,561	6,521	6,243	6,584		25,909
	3,513	3,512	3,561	3,629	3,524		14,226
	2,946	3,049	2,960	2,614	3,060		11,683
目標値		129	133	139	144	199	744
		10	10	10	10	60	100
		119	123	129	134	139	644
実績値		102	▲40	▲278	341		125
		▲1	49	68	▲105		11
		103	▲89	▲346	446		114
評価		△	△	△	◎		
		△	◎	◎	△		
		○	△	△	◎		

ウ 地域団体による新規事業化数(件)

年度	2015 基準値	2016	2017	2018	2019	2020	累計
目標値		0	1	2	2	1	6
実績値 (累計)	0	0 (0)	1 (1)	2 (3)	3 (6)		6
評価		—	◎	◎	◎		

KPI の検証

年度	KPI の検証
2019 (R1)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風・大雨被害に伴う約 3 ヶ月の運休や、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、約 3 万人減となった。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市原市は約 10 万 5 千人減、君津市は約 44 万 6 千人増で目標値を上回った。</li> <li>・ 市原市は、観光分野全般で台風被害等が影響した。</li> <li>・ 君津市は、濃溝の滝を中心に、新たな観光地点を集計対象に加えたことが影響した。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上総牛久駅でのカフェスタンドの開業、石神菜の花畑を蜜源とした養蜂事業、里山を舞台とした旅ヨガプロジェクトにより、2019(R1)年度の目標値を達成。</li> </ul>
2018 (H30)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 年度と同規模の年間約 7 万 3 千人を維持。</li> <li>・ 里山トロッコ列車を軸にした観光コンテンツの総合的な魅力向上が必要。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市原市は約 7 万人増、君津市は約 34 万 6 千人減で目標値を下回った。</li> <li>・ 市原市は、スポーツツーリズムの視点から集計対象施設を追加し約 27 万 1 千人の増加、一方でアートイベント・上総いちはら国府祭りにおける台風の影響により約 20 万 2 千人の減少。</li> <li>・ 君津市は、紅葉の不調等によるイベント来場者数の減少が影響しているものと思われる。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「出張牛久商店街」の企画運営及び加茂地区の空き家活用の取り組みにより、2018(H30)年度の目標値を達成。</li> </ul>

年度	KPI の検証
2017 (H29)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016 年度と比較すると微減、ただし 2016 年度は目標値 10 倍以上の実績があり実数では 2016 年度と同規模の年間約 7 万 4 千人を維持。</li> <li>里山トロッコ列車の運行や沿線の菜の花など観光地としての魅力が定着しつつある。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市原市は約 5 万 6 千人増、君津市は約 8 万 9 千人減で目標値を下回った。</li> <li>市原市では、ゴルフ場利用者数の増加やいちほらアート×ミックス等による効果が伺える。</li> <li>君津市では、清水溪流広場(濃溝の滝・亀岩の洞窟)のブームが落ち着き、近隣の道の駅の入込客数が大きく減少したことが影響しているものと思われる。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>菜の花を利用した「ハルイチバン」プロジェクトの実施により、2017(H29)年度の目標値を達成。</li> </ul>
2016 (H28)	<p>ア小湊鉄道観光利用乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小湊鉄道トロッコ列車の運行等により目標値を大幅に上回った。</li> </ul> <p>イ観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市原市・君津市ともに目標値を下回った。</li> <li>君津市の清水溪流広場(濃溝の滝・亀岩の洞窟)の訪問者数など実態が反映されていない部分があり、今後、計測地点等についての検討が必要。</li> </ul> <p>ウ地域団体による新規事業化数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊の活動の初年度であるため 0 件としている。</li> </ul>

## (5) 今後の方向性について

- ◆ 新型コロナウイルスの感染症の拡大傾向が続くウィズコロナ、感染症が収束したポストコロナの社会は、以前の社会に戻るのではなく、新たな社会へ移行する時代であり、特に人の移動や集客を前提とする観光産業においては、非常に厳しい状況が続くものと考えられる。一方で感染拡大防止の経験を契機に、働き方を変えたり、地方移住を前向きに考える「地方回帰」の流れが生まれてきており、将来を先取りした取組への変革を早期に進める必要がある。

今後は、移住者や企業のニーズ・行動の変容を捉え、里山や立地性といった本市の強みを活かすオフィス誘致やマイクロツーリズムなどの新たな取組を進めていく。

これには、地域のステークホルダーの強力な連携が必要であり、DMO を中心としたワンストップ体制の構築や、地域おこし協力隊による新たな発想の事業化などに重点的に取り組んでいく。

## 2 “ちば”共創都市圏内における連携によるグリーンツーリズムの推進 (地域資源を活かした観光振興)

### (1) 計画概要

- ◆ グリーンツーリズムの推進を足掛かりとして地域連携を図る DMO の創設に向けて、広域的な連携を軸とした、マーケティング調査を行い、ターゲットの調査分析に基づき観光地としてのブランディング戦略の構築を図る。
- ◆ 「東京」を中心としたエリアをターゲットに、各市が有する「緑」「里」「農」などの地域資源を観光資源として、魅力ある価値を伝えるための戦略的プロモーションを行う。
- ◆ 外部人材を千葉市観光協会に登用し、マーケティング調査の結果を活かしたさらなるプロモーション活動とともに、市原市及び千葉市の観光資源を巡るモニターツアーを実施する。
- ◆ グリーンエリアの周遊を目的に、「里山サイクリング」を推進する。

### (2) 計画期間

- ◆ 2017(平成 29)年度～2019(令和元)年度 3 年間 ※計画期間終了  
(事業主体は千葉市で、市原市は、2018(平成 30)年度、2019(令和元)年度実施)

### (3) 主な実施状況

年度	実施状況
2019 (R1)	DMOの自立に向け、千葉市と連携を図りながら、集客につながる情報発信やモニターツアーの開発などを実施
2018 (H30)	DMOの自立に向け、千葉市と連携を図りながら、集客につながる情報発信やモニターツアーの開発などを実施
2017 (H29)	マーケティング調査及び統一プロモーションを実施(千葉市)

## (4) 成果検証

## ① KPI(重要業績評価指標)

ア 観光入込客数(千人)※上段:総数 中段:市原市 下段:千葉市

年度	2016 基準値	2017	2018	2019	累計
実数	28,882	29,014	29,363	29,475	87,852
	3,512 25,370	3,561 25,453	3,629 25,734	3,524 25,951	10,714 77,138
目標値		419	421	592	1,432
		-	-	-	-
実績値		132	349	112	593
		49 83	68 281	▲105 217	12 581
評価		△	○	△	△
		-	-	-	-

目標値及び実績値は各年度における対前年度増減数を示す(以下同じ)。

◎=目標値以上、○=目標値の概ね8割以上、△=その他

イ 体験型観光プラン参加金額(千円)

年度	2016 基準値	2017	2018	2019	累計
実数	5,660	2,165	2,273	1,419	5,857
目標値		1,420	2,360	3,000	6,780
実績値		▲3,495	108	▲854	▲4,241
評価		△	△	△	△



## ② KPI の検証

年度	KPI の検証
2019 (R1)	<p>ア観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市原市は約 10 万 5 千人減、千葉市は約 21 万 7 千人増であったが、目標値を下回った。</li> <li>・ 市原市は、観光分野全般で台風被害等が影響した。</li> </ul> <p>イ体験型観光プラン参加金額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風・大雨被害や新型コロナウイルス感染症の影響によるプラン催行中止や外出自粛が大きく影響。</li> <li>・ 里山クロスバイクやカメラ撮影ツアーなどターゲットを絞ったプランの参加者が想定以上に少ない結果となった。</li> <li>・ 全体的にプラン単価が上昇していることも、参加者数の減少に影響していると考えられる。</li> </ul>
2018 (H30)	<p>ア観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マーケティング調査の成果を活かし、地域間連携をもとにしたプロモーション展開やモニターツアーを実施したが、集客数増加には至らなかった。</li> </ul> <p>イ体験型観光プラン参加金額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食」に関係しないプランの参加者が少ない印象。</li> <li>・ グリーンツーリズム関連プラン数は前年よりも増加したものの、単価が大きく下がったことが影響している。</li> </ul>
2017 (H29)	<p>ア観光入込客数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マーケティング調査や観光関連事業者へのヒアリング調査を中心に事業を行ったため、効果発現に至らなかったと考えられる。</li> </ul> <p>イ体験型観光プラン参加金額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幅広い世代に人気があり、集客力の高いコンテンツである秋の収穫体験プランや、鉄道ファンに人気の小湊鐵道 100 周年記念プランなどは期待通りの実績。</li> <li>・ その他の新規に発掘したプランなどは、想定したほどの成果が得られなかった。</li> </ul>

## (5) プロジェクト全体(3 か年)の評価と今後の方向性

## ① KPI 及び計画の達成状況について

- ◆ マーケティング調査をもとに Web サイトやパンフレットの都内書店への設置のほか、テーマ性のあるモニターツアー実施など積極的なプロモーション活動を展開してきたが、目に見えて集客数に影響を及ぼすことは出来なかった。
- ◆ 体験型観光プラン参加金額については、2014 年の事業開始から年数が経過するに伴い、プラン催行希望者が減少傾向にあることも影響し、2019 年度は台風・大雨被害や新型コロナウイルス感染症の影響によるプラン催行中止や外出自粛が大きく影響した。
- ◆ モニターツアーの参加者アンケート結果により、地元の農産物を使用した「食」に関する体験コンテンツがターゲット層にとって満足度の高いコンテンツであること、再訪時は友達と来たいとの回答が7割以上を占めていることから、訪れたスポットがターゲット層に好まれるものであることが把握できた。
- ◆ また、体験型観光プランでは、収穫体験や食に関係するプランの集客力が高く、根強

いファンが多いと思われる小湊鐵道プランでは、県外からの参加も多くみられた。

**② 今後の方向性**

- ◆ 新型コロナウイルス感染症による社会の変容や、ターゲット層の傾向を捉え、「食」や体験など、近隣からの再訪を促すコンテンツを中心に、千葉市等と連携して、継続的な情報発信を展開していく。

## 3 2019(令和元)年度における各プロジェクトの事業実施状況

## (1) 世界に一番近い「SATOYAMA」プロジェクト

単位:千円

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
1	観光地おもてなし事業 (景観整備支援) (観光振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年 5 月、8 月 小湊鉄道月崎・上総大久保駅間の沿線エリアの景観整備を実施</li> <li>同年 11 月、12 月 イルミネーション補助</li> <li>令和 2 年 2 月 小湊鉄道月崎・上総大久保駅間の沿線エリアの花木植栽を実施</li> <li>令和 2 年 2 月 上総久保駅に植樹</li> <li>令和 2 年 3 月 上総鶴舞駅のトイレ周辺整備</li> </ul>	1,500 (750)
2	アートを活用した観光地づくり事業 (芸術祭推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術大学と連携し、共同研究を行っている有機天然顔料の精製技術に関する成果発表展を実施</li> <li>ベラクルス州立大学造形美術研究所等、年間を通じて国際交流を実施</li> <li>月出地区内で育てられている食材を用い、同校内で食のワークショップを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考え、中止</li> <li>「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020」において、月出工舎で実施される企画、運営等の準備業務を実施(同祭は、新型コロナウイルスの影響で令和 3 年 3 月 20 日～5 月 16 日に延期)</li> </ul>	4,000 (2,000)
3	いはら歴史のミュージアム整備事業 (ふるさと文化課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動や市民との交流、文化財活用に向けた取組を継続</li> <li>収集資料管理システムを運用し、資料情報 52 件について、Web サイト上で発信</li> </ul>	393 (196)
4	市原市観光協会補助事業 (観光振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市原版 DMO の構築に向けた公益事業を実施</li> </ul>	16,634 (8,317)
5	いはら魅力発信事業 (シティプロモーション推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信力の強化のため、有識者による懇話会の開催やシティプロモーション研修を実施</li> </ul>	155 (78)
6	農家レストラン支援事業 (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元食材を利用したメニューを開発</li> <li>生産者等に向けた農家レストランセミナーを開催</li> </ul>	670 (335)

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
7	ふるさと名物応援事業 (商工業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2事業者の商品開発事業を採択</li> <li>・ 1事業者は試作品の作成・販売に至り、販売利益が生じたことにより補助金交付実績は0円</li> <li>・ 1事業者は原材料仕入れルートを確立し、試作品が完成</li> </ul>	500 (250)
8	有害獣対策事業 (農林業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジビエ料理の販売促進事業を実施</li> </ul>	990 (495)
9	いちはら版地域おこし 協力隊事業 (拠点形成推進課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小湊鉄道上総牛久駅の一角で、カフェスタンドを開業</li> <li>・ 石神菜の花畑を蜜源とした養蜂事業を実施</li> <li>・ 加茂地区の空き家の利活用に向けた、空き家の管理、移住希望者とのマッチング</li> <li>・ 南市原の里山を舞台としたヨガ体験の企画・運営</li> </ul>	7,068 (3,534)
10	いちはら市民大学推進 事業 (生涯学習課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市原市の観光振興や文化財等の保護活用に主体的に携わる市民の育成を目指した専門講座として、観光振興コースと歴史文化リエゾンコースの2コースを実施</li> <li>・ 観光振興コースは年間14回講座を開催し、27名が受講</li> <li>・ 歴史文化リエゾンコースは年間10回講座を開催し、30名が受講</li> </ul>	386 (193)

## (2) “ちば”共創都市圏内における連携によるグリーンツーリズムの推進

単位：千円

	事業名 (担当課)	事業概要・実績	交付金対象 事業費 (うち交付金)
1	グリーンツーリズム推進 事業 (観光振興課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マーケティング調査結果に基づき、都内在住のターゲットに対し、WEBと冊子を連動させたプロモーションを実施。</li> <li>・ WEBで紹介しているモデルコースを実際に周遊する日帰りのモニターツアーを開催。</li> </ul>	1,066 (533)